

志賀原子力発電所2号機 粒状金属が流入した可能性のある機器の点検状況について

平成18年10月27日
北陸電力株式会社

当社は、志賀原子力発電所2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力135万8千キロワット）の高圧タービン車室内で発見された粒状金属が流入した可能性がある機器について開放点検を行っています。（9月28日、10月12日お知らせ済み）

これまでの点検において、湿分分離加熱器¹及び復水器²の内部等から、合計約900個（約80グラム）の粒状金属を発見、回収し、主蒸気止め弁のショットブラスト材と同じかどうかについて、現在、成分分析を行っているところです。

また、10月17日、第4給水加熱器³（B）のドレン弁⁴内部より、マーキングペン1本（太さ約1.5cm×長さ約15cm）を発見、回収いたしました。この原因について究明するとともに、粒状金属が流入した可能性のある機器の点検をはじめ、設備全般の点検の中で幅広く異物がないか入念に点検してまいります。

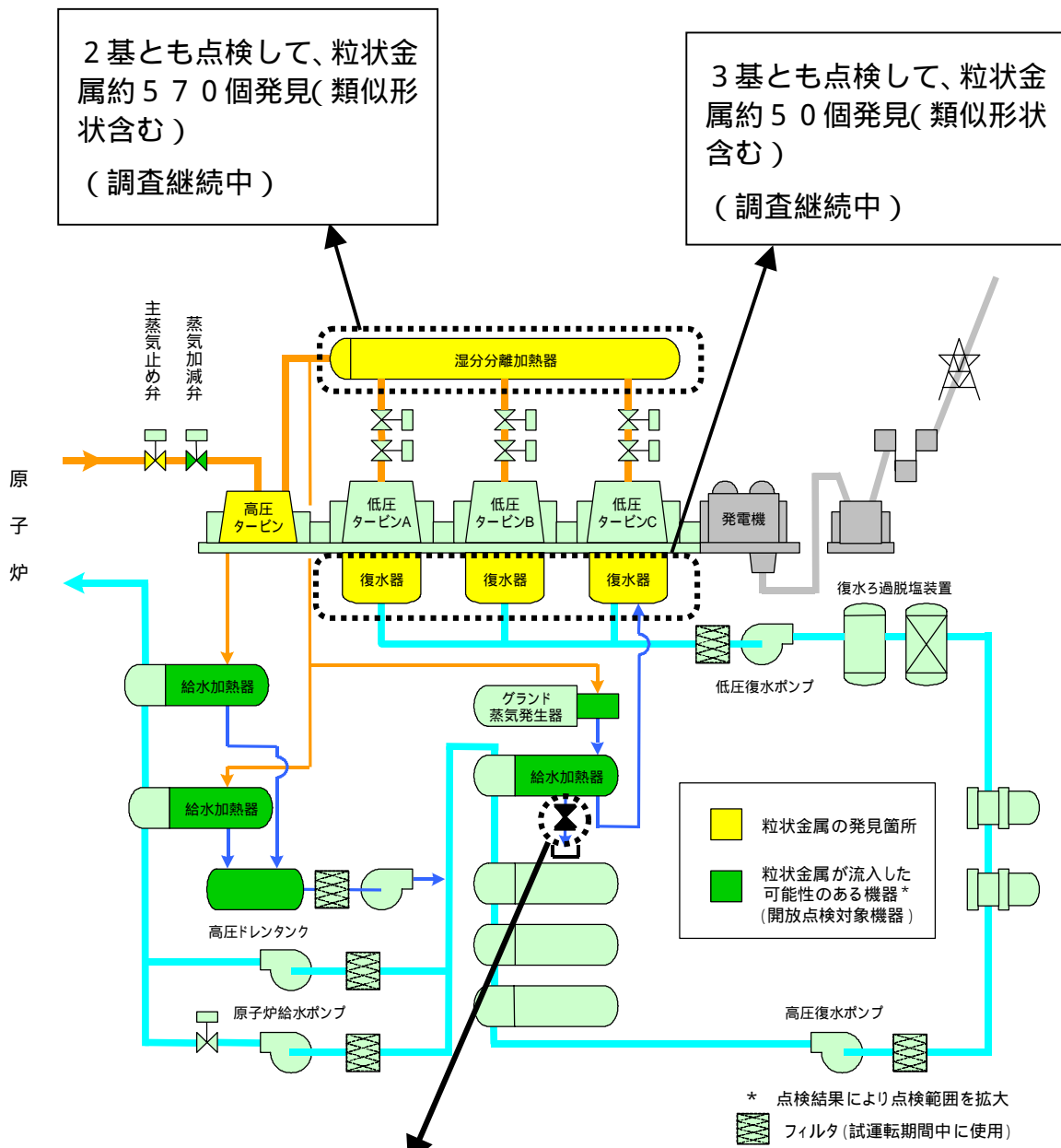
これらの事象については、石川県及び志賀町と締結している連絡基準に係る覚書に基づき当該自治体へ連絡しています。

以上

- 1 湿分分離加熱器：高圧タービンで仕事を終えた蒸気の湿分をとり、蒸気を加熱する熱交換器
- 2 復水器：低圧タービンで仕事を終えた蒸気を海水で冷却し、水に戻す熱交換器
- 3 給水加熱器：原子炉への給水を蒸気で加熱する熱交換器
- 4 ドレン弁：点検時等に機器内に溜まっている水を排水するための弁

添付資料：粒状金属の流入した可能性のある機器の点検状況

粒状金属の流入した可能性のある機器の点検状況



第4給水加熱器(B)のドレン弁内部より、マーキングペン1本発見

マーキングペン
(回収作業時に変形)

その他

高圧タービンにつながる圧力計元弁等の小口径の弁・配管から粒状金属約280個発見(類似形状含む)
(調査継続中)